

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 大学院自然科学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について (1)学位プログラムとしてのコースワークに関する検討を進める。 (2)学位審査基準および外部教育評価の検討を行う。 (3)国内外のインターンシッププログラムの設定促進と同時に留学生の受入派遣体制を充実させる。 ・教育方法・内容について (4)先進基礎科学特別コースにおけるインターンシップ科目などを活用して広範な視点を持った人材を育成する。 (5)先進複合領域副専攻に設けた先進基礎科学特別コースと先進異分野融合特別コースを活用し、専門分野を超えた異分野融合教育を推進する。 (6)英語による講義の開講を増加と同時に英語のみでの学位の取得を可能にするコースを設置する。 ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について (7)eGRADを柔軟に運用し、アカデミックアドバイザーを有効に活用する。 (8)PDCAサイクル確立の一環として研究科年報を発刊する。 (9)若手研究者キャリア支援センター等と連携し、学生に対するキャリア支援プログラムを活用して進路選択を支援する。 ・学生支援について (10)奨学金助成情報の収集と発信に努める。 (11)TA・RAの雇用機会を増進する。 ・その他 (12)高校生・大学院生研究交流会を開催する。 (13)部局間および大学間交流協定の締結を拡充する。 (14)シンポジウム・研究集会の開催を奨励する。 (15)マスメディアを利用した情報発信による広報に努める。 (16)優秀学生への科長表彰を実施する。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)博士前期課程の各専攻における定員充足を目指す。 (2)博士後期課程の定員充足を目指す。 (3)博士前期課程修了者の内の就職希望者の100%進路確定に取り組み。 (4)博士後期課程においては標準修業年限での学位取得を促進するとともにキャリア支援教育を充実させる。</p>	<p>自己評価</p> <p>①-1</p> <p>・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について (1)学位プログラムとしてのコースワークに関する検討を進め学生便覧への記載を行った。 (2)学位審査において筆頭著者でない参考論文の共著者に承諾書を取り、学務課で保管を義務つけた。 (3)インターンシッププログラムおよび留学生の受入派遣体制を検討し充実に向け努力した。 ・教育方法・内容について (4)先進基礎科学特別コースの履修生が増え、広範な視点を持った人材を育成が順調に進んでいる。 (5)専門分野を超えた異分野融合教育を推進する従来コースに加え、生命医用工学専攻の設置申請が認められた。 (6)英語による講義の開講を増加し、協定校から講師を招いて特別開講を行ったが、英語のみで学位取得が可能なコースの設置は検討段階である。 ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について (7)eGRAD運用は停止となったが、アカデミックアドバイザーは引き続き有効に活用された。 (8)PDCAサイクル確立の一環として研究科年報を日本語英語の併記で発刊し、海外への広報にも活用した。 (9)若手研究者キャリア支援センター等と連携し、学生に対するキャリア支援プログラムを活用して進路選択を支援した。 ・学生支援について (10)奨学金助成情報の収集と発信に努めた。 (11)TA・RAの雇用機会を増進に努めた。 ・その他 (12)高校生・大学院生研究交流会を継続して開催した。 (13)部局間および大学間交流協定の締結を継続して拡充した。 (14)シンポジウム・研究集会の開催を奨励した。 (15)マスメディアを利用した情報発信による広報に努めた。 (16)優秀学生への科長表彰を継続して実施した。</p> <p>①-2</p> <p>(1)博士前期課程の各専攻における定員充足を目指すよう努めた。 (2)博士後期課程の定員充足を目指すよう努めた。 (3)博士前期課程修了者の内の就職希望者の100%進路確定に取り組んだ。 (4)博士後期課程においては標準修業年限での学位取得を促進するとともにキャリア支援教育を充実させるよう努めた。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>・研究水準及び研究成果等について (1)外部資金獲得のための専攻や講座の枠を超えた水準の高い研究プロジェクトの編成を促進する。 (2)研究成果(シンポジウム・研究集会の開催および論文誌掲載など)の公表を促進する。 (3)知的財産本部およびURAと連携した知財の獲得を推進する。 (4)マスメディアを利用した情報発信により広報に努める。 ・研究実施体制等の整備について (5)世界ランキング上位25位以上の大学出身者から若手外国教員の採用を検討する。 (6)講演会やセミナーの開催等により産学連携の機会を設ける。 (7)若手研究グループの育成と支援を行う。 (8)複数の先進研究者による研究科内研究拠点体制を整備するとともに支援する。 (9)卓越する研究を実施する個人あるいはグループを科長裁量経費等により支援する。 (10)優秀な成果を挙げた研究者に対し科長表彰を行う。 (11)科長表彰を受けた優秀な研究者による講演会やセミナーを企画実施する。 (12)一般型テニュア・トラック制の導入を拡充する。 ・その他 (13)大型研究助成(年間3000万円以上)への申請状況を把握するとともに教員に対し申請を依頼する。 (14)各種大型競争的資金を目標とする大型研究プロジェクトの申請を支援する。 (15)科学研究費の申請率100%以上を目指すと同時に採択率の向上を目指す。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)成果発表の件数を前年度比で10%増を目指す。 (2)若手教員、女性教員、外国人教員の数を前年度比で10%増を目指す。 (3)科研費申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)以上を目指す。 (4)科研費採択率30%以上を目指す。 (5)大型外部資金(年間3000万円以上)の獲得前年比5%増を目指す。</p>	<p>自己評価</p> <p>②-1 目標</p> <p>・研究水準及び研究成果等について (1)外部資金獲得のための専攻や講座の枠を超えた水準の高い研究プロジェクトの編成促進に努めた。 (2)研究成果(シンポジウム・研究集会の開催および論文誌掲載など)の公表を促進した。 (3)知的財産本部およびURAと連携した知財の獲得を推進した。 (4)マスメディアを利用した情報発信により広報に努めた。 ・研究実施体制等の整備について (5)世界ランキング上位25位以上の大学出身者から若手外国教員の応募がなかった。 (6)講演会やセミナーの開催等により産学連携の機会を設けた。 (7)若手研究グループの育成と支援を行った。 (8)複数の先進研究者による研究科内研究拠点体制の整備や支援は積極的に行ったが、経済的には限界があった。 (9)卓越する研究を実施する個人あるいはグループの支援は積極的に行ったが、経済的には限界があった。 (10)優秀な成果を挙げた研究者に対し科長表彰を行うことは学部で実施している表彰との差が出せないため見送った。 (11)科長表彰を見送ったので優秀な研究者による講演会やセミナーの企画は実施していない。 (12)一般型テニュア・トラック制の一部導入を行った。 ・その他 (13)大型研究助成(年間3000万円以上)への申請状況を把握するとともに教員に対し申請を依頼した。 (14)各種大型競争的資金を目標とする大型研究プロジェクトの申請を支援した。 (15)科学研究費の申請率100%以上を目指すと同時に採択率の向上を目指した。</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1)成果発表の件数を前年度比で10%増を目指した。 (2)若手教員、女性教員、外国人教員の数を前年度比で10%増を目指し、それに合わせた公募に努めたが、女性教員については採用がなかった。 (3)科研費申請率100%以上を目指し、向上させることができた。 (4)科研費採択率30%以上を目指した。 (5)大型外部資金(年間3000万円以上)の獲得前年比5%増を目指した。</p>

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>・地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>(1) (学部と協力して) 高大連携による出前講義を行う。</p> <p>(2) 高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を開催する。</p> <p>(3) 科学先取り岡山コースを実施する。</p> <p>(4) 中学生の社会見学授業の受け入れを実施する。</p> <p>(5) 産官学が連携した研究会事業を推進する。</p> <p>(6) 研究科教員による地域と連携した各種講演会や研究会の開催を支援する。</p> <p>・国際交流・協力、外国人研究者の雇用について</p> <p>(7) サウジアラビア、ミャンマーとの連携を推進する。</p> <p>(8) サンノゼ市など岡山姉妹都市との交流を推進する。</p> <p>(9) 研究科教員による国際会議・セミナー開催を支援する。</p> <p>(10) 外国人研究者の招聘・訪問を促進する。</p>	<p>③-1 目標</p> <p>・地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>(1) (学部と協力して) 高大連携による出前講義を行った。</p> <p>(2) 高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を開催した。</p> <p>(3) 科学先取り岡山コースを実施した。</p> <p>(4) 中学生の社会見学授業に関しては本年度の申し込みが無かったので実施していない。</p> <p>(5) 産官学が連携した研究会事業を推進した。</p> <p>(6) 研究科教員による地域と連携した各種講演会や研究会の開催を支援した。</p> <p>・国際交流・協力、外国人研究者の雇用について</p> <p>(7) サウジアラビア、ミャンマーとの連携を推進した。</p> <p>(8) サンノゼ市など岡山姉妹都市との交流を推進した。</p> <p>(9) 研究科教員による国際会議・セミナー開催を支援した。</p> <p>(10) 外国人研究者の招聘・訪問を促進した。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>(1) 講演会や研究会を5回程度以上開催する。</p>	<p>③-2 目標</p> <p>(1) 講演会や研究会を5回以上開催した。</p>
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>(1) 先進基礎科学特別コース履修生の博士後期課程進学率の向上を図るための施策が必要である。</p> <p>(2) 英語および日本語による研究科年報の定期的発行等により、継続的に国内外からの学生獲得に努めて学生定員の充足を図ることが必要である。</p> <p>(3) 留学生受入増を見込んで英語で修了できるコースの設定を積極的に進める必要がある。</p> <p>(4) 女性教員、外国人教員の受入促進のための具体的な施策が必要である。</p> <p>(5) 該資金獲得に向け、研究科の広報活動を向上させて、実績の知名度拡大の努力が従来以上に必要となってきた。</p>	